

下平丸『もぐさ観音』について

平成30年4月15日、高源院* 前住職「江澤一遠」が、「もぐさ観音」縁日に参拝し概要を記す

(*高源院 長野県飯山市豊田6356-1)

いつ

天文3年（1534年） 甲午（きのえうま）嘉月（かげつ・3月または1月の異名）下旬（新暦だと3月下旬から5月初旬）当時の高源院住職は、2世 忠庵長節大和尚（？ちゅうあん ちょうぶしだいおしょう）



誰が

江州石田（滋賀県長浜市石田町）辺りに住む、**威風堂々たる男**

何を

餘儀（よぎ）にあらず（=ほかに方法が無く）訪ねた。

高麗（こうらい・朝鮮の王朝）の僧「慧慈（えじ）」*1 が、聖徳太子に授け奉る（さづけたてまつる）（=授けた）『御丈1尺1寸（みたけ 33.3cm）』の、{もともと美濃国井田（岐阜市長良井田（ながらいだ））の半福寺に御座候（ござそうろう）（=あった）} 觀世音菩薩像（かんぜおん ぼさつぞう）を持ち、「**当寺に安置成らしめ賜え**（=高源院に置いてください）」「先祖より信仰すること浅からず（=時間が経ってない）」「この度思う子細ありて（=いろいろあって）、密かに守護し奉り（=守りながら）この所に参りました」。

「**後世に子孫がこの辺りに現れたなら、大慈大悲（だいじだいひ）***2 の心で、お恵みを垂れ給え（たれたまえ=与えてください）」・・とそのままその男は行方不明となる。

観世音菩薩は靈験あらたかにて、近隣のみならず多方面から信仰を集めます。

*1) 慧慈 えじ 7世紀の高句麗の僧。慧慈とも書く。推古3（595）年来日して、聖徳太子の師となり、百濟から来日した慧聰（慧聰）と共に「三宝の棟梁」と称された。

*2) 大慈大悲 だいじだいひ 慈悲で人々や生物に楽しみを与え、苦しみを取り除く事

時至り

慶長10年（1605年） 乙巳（きのとみ）3月17日（新暦だと4月半ばに当たる）

誰が

「**石田大炊之助**（いしだ おおいのすけ）」なるもの現れる。先祖が奉納し奉りし**尊像を拝借したい**との申し出（＝先祖が奉納した観世音菩薩像をお借りしたい）。住まいする平丸に一字（お堂）を建てて安置いたしたい。時の住職「高源院7世通庵**寿貴大和尚***3（じゅかん だいおしよう）」は、申し出をやむなく**承諾するも**、翌慶長11年2月頃より、寿貴大和尚は、**体調不良**に陥る。永く信仰を集めた観音様を、平丸へ送り出したる祟り（たたり）かと・・。

明日は、弟子と共に**平丸へ参上**しようと、身を清め読経すると、微妙な声で『和尚　和尚』と呼ぶ声あり。厳然（げんぜん=いかめしくおごそか）として光明輝く**老僧が現れ**、「生老病死（しょうろうびょうし）の四苦は人の世の常なり、**釈尊***4 でさえも涅槃（ねはん）に入られたものだ」と。そして**寿貴大和尚の勞をいたわった**。すると体調も戻ることとなる。

*3) 寿貴和尚 元和3年（1617）丁巳（ひのとみ）4月8日寂 98歳

*4) 釈尊（しゃくそん） 釈迦牟尼世尊（しゃかむにせそん）の略称。姓はゴータマ、名はシッダールタ。BC5世紀ごろの人で仏教の始祖。

71年目（484 - 413 = 71）に末裔（まつえい）が高源院を訪れた。

「これからはお互いに行き来し、観音様を信仰しましょう」と約束し、（寺の後世のために）忘れてはならないと縁起をしたためた。

その**縁起書**を、文政2年（1819）己卯（つちのとう）8月、当院19世**泰岳素禪大和尚**（たいがくそせん だいおしよう）が書き写して、**石田伊右衛門様**に授与したとされる。